小学校の水泳授業

民間プールの活用など

学校ごとに適した方法を

問　今年度に予定されていた朝霧小学校のプールの改築は見直し・再検討となったままだが今後のプール授業はどうなるのか。

答　同校の来年度の水泳授業は民間プールの活用を検討している。天候に左右されず計画的に実施でき、専門の指導者によるきめ細やかな指導、水質や施設維持管理の教職員への負担軽減が期待され、先行実施の２校においても好評である。なお、耐用年数を経過した市内学校プールは増えているが、製造最大手のメーカーが撤退するなど新たな改築は厳しい状況だ。今後、全面改築が必要な学校には、近隣の学校プールの共同利用、公共・民間プールの活用等、学校ごとに最も適した方法を選択していく。

朝霧歩道橋

壁面パネル

更新の考えは

問　朝霧歩道橋の壁面パネルは経年劣化により黄ばんでいる。大蔵海岸の風光明媚な景観を来訪者等に感じてもらうため透明度の高いパネルに更新できないか。

答　同歩道橋は大蔵海岸への通路として供用開始から27年が経過し、壁面パネルの耐用年数となる20年を超過しているが、パネルに大きな損傷につながるものはなく、更新の判断となるひび割れ等の劣化基準も点検等で安全性を確認している。更新は多額の費用が必要なため、パネルの透明化は改修が必要なときが適切と判断している。今後はパネルの内部に工夫を凝らすなど、大蔵海岸へのおもてなし感を表現するさまざまな取り組みについて調査、検討していく。



大蔵海岸の玄関口（朝霧歩道橋）

高齢者の終活支援

専門相談や講座を実施

支援の拡充に努める

問　身寄りのない高齢者への終活支援について市の取り組みを聞く。

答　本市は終末期に関する不安等の解消や課題解決のため、社会福祉協議会が運営委託する明石市後見支援センター内に終活相談支援窓口を設置し、一般相談と弁護士、司法書士による専門相談を実施している。意向がある場合は本人死亡後の各種手続き、葬儀や納骨の手配、財産管理等をあらかじめ委任する死後事務委任契約を案内している。昨年度は終活の理解と啓発のため終活講座を９回開催し終活の必要性や準備の周知を図った。６月には身寄りのない高齢者を支援する仕組みが法制化されており、今後も同協議会と連携し、支援の拡充に努めていく。

ＰＦＡＳ汚染問題

市民からの意見や

今後の取り組みは

問　ＰＦＡＳ汚染問題に関する市主催の意見交換会の内容や市民団体との連携について聞く。

答　今年８月と９月に開催したＰＦＡＳに関する意見交換会では、不安に感じていることや市への質問・提案について多くの意見があった。短期的に取り組めるものは今年度から着手し、市の施策に生かせるものは今後のＰＦＡＳ対策の参考にしていきたい。また、市民団体が収集・保有している資料や情報、独自の取り組みについて情報共有を図り、より効果的なＰＦＡＳ対策の実現に向け、どのような活用の可能性があるかを検討していきたい。今後も正しい情報を分かりやすく伝えられるよう取り組んでいく。

小中一貫教育校のさらなる発展へ

一体感や特色ある取り組みの強化を

問　高丘小中一貫教育校の開校５年間の検証と今後の取り組みを聞く。

答　同校は、30人程度学級や外国語教育、明石北高等学校や地域との連携等、特色ある取り組みを進めてきた。保護者対象の調査では、取り組みについては評価されたが、３校が離れた場所にある併設型のため一体感を感じにくいなどの意見があった。そこで、リモートを活用した始業式の一体的な実施や児童会と生徒会が連携するなど課題解決に努めている。今後は、９年間を通して育てたい子どもたちの姿を明確にしたカリキュラムの見直しを進め、児童生徒が主体的に参画する機会を増やすなど、一体感や特色につなげていきたい。

高齢者の困り事

課題の早期把握で

適切な支援を

問　介護認定制度に人を合わせるのではなく、困っている人に制度を合わせる仕組みが必要である。市の見解は。

答　本市の高齢者支援は、すぐに介護保険サービスにつなげるのではなく、できることは本人が行い、できない部分を支える自立支援の視点で行っている。戸別収集は要介護２以上等の要件を満たさなければ行えず、ごみ出しだけが困難な人に支援が届かない課題は認識している。多くの相談があり、できるだけ早く支援が必要な人の課題を把握し適切な支援につなぐことが重要である。今後も高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう自立支援と相談支援体制の両立に努める。

多様な関係者と連携

にぎわいや回遊性高め

大蔵海岸の魅力向上へ

問　大蔵海岸の魅力向上の取り組みと今後の展開について聞く。

答　本市は今年６月、西日本で唯一、同一地点で日本の朝日と夕陽百選の認定を受け、明石海峡と朝夕の太陽が織りなす美しい絶景を市内外へＰＲしていく。また７月には民間等と連携しキッチンカーの出店に関する社会実験に取り組んだ。さらに兵庫県立大学と連携しカキ殻を用いて生態系の修復に向けた実証実験を行う予定だ。今後も多様な関係者と継続して相互に連携する仕組みを構築するため（仮称）大蔵海岸活性化プラットフォームを立ち上げ、にぎわいや回遊性向上、来訪者の滞在時間を延ばすなど、Ｌ字のまちづくりの視点も視野に入れ、魅力向上につなげたい。



さまざまなイベントを実施

意見書を提出

意見書１件を可決し、政府・関係機関に送付しました。以下はその要旨です。

◎子どもたちのゆたかな学びと育ちを保障するための２０２７年度政府予算に係る意見書

１　教育の機会均等と水準の維持向上を図るため、地方財政を確保した上で義務教育費国庫負担制度の負担割合を引き上げること。

２　子どもたちのゆたかな学びを保障するため、事務職員等の少数職種を含む加配定数の拡充など教職員定数改善を推進すること。

３　小・中学校のさらなる学級編制標準の引き下げ等、少人数学級について検討すること。

請　願

▽採択された請願△

○子どもたちのゆたかな学びと育ちを保障するための２０２７年度政府予算に係る意見書採択の請願

○（仮称）明石市ケアラー支援条例制定に関する請願

高校生のインターンシップ生を受け入れ

７月21日(火)から27日(月)まで

明石清水高等学校「人と環境類型」２年生２名のインターンシップ生を昨年に引き続き受け入れました。

議員の活動を体験してもらうため、会派ごとのオリエンテーションや市内各地への視察に同行しました。

参加した生徒からは、議員が現場に足を運び、市民一人一人の声を大切にして課題解決に取り組む姿に深く感銘を受けた。学校の授業だけでは得られない貴重な経験となり、これからの学校生活や自らの進路を考える上での大きな糧にしたいとの感想がありました。

10月17日(土)には、この体験に関する学習成果発表会が明石清水高等学校で開催され、議員も参加しました。



会派でのオリエンテーション



子育て支援センターの視察

議員よもやま話

私の推し本

壊れた脳　生存する知

山田　規畝子　著　　講談社

高次脳機能障害とは、脳損傷に起因する、注意力・記憶力・言語・感情のコントロール等がうまく働かなくなる認知機能の障害です。

整形外科医だった著者は私の旧友であり、出版されてすぐ手に取りました。３度の脳出血を繰り返し、重篤な高次脳機能障害を発症。その具体的な症状や患者としての思いが、医師、障害を抱えながら子育てをする母親、尊厳を持った一人の人間としての多角的視点から冷静に書き記されています。

まだまだ認知と理解が進まない高次脳機能障害について、少しでも多くの方に知っていただきたいと思います。